

都連会館設立に向けて

副会長 澤田 弘明

今シーズンも多数の方々の献身的なご尽力をいただき、約70会場にわたる雪上行事を無事終了することができました。ご協力をいただいた方々、また、ご参加くださった多数の会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

懸案となっていた、財団法人としての規約・規則等の整備もすすみ、いよいよ名実ともに財団としての新しい一步を踏み出すことになりました。このことに関して、長年にわたるねばり強い取り組みと熱心な論議をいただき、ご労苦に対して心より感謝申し上げる次第です。論議の過程でも明らかになったように、財団には大きなメリットがある反面、短所もあります。長所は大いに発展させながら、陥りやすい弊害には十分留意して運営していくことが、これからの務めであると思います。

法人化からちょうど20年、この間に都連の事業は飛躍的に拡大し、社会的な影響力も以前とは比べものにならないほど広範になりました。財団としての基礎がためができたわけです。東京都と代表するスキースポーツ団体として、これからさらに幅広い事業を展開するためには、なんといっても永続性のある、安定した活動の本拠地を確保する必要があります。名実ともに大都連にふさわしい根拠地を築くことが何より大切と考えます。いうまでもなく都連会館の設立です。

このことは、私たちの先輩の時代から、常に話

題にのぼっていました。自分たちの活動の本拠地をもちたいという切なる願いです。その可能性に道を開いたのが財団法人化です。実質的に財団としての新しい一步を踏み出そうとしている現在、設立への具体的なステップを築く時期が来たといえます。幸い、評議員会での要望もあり、理事会の議を経て、昨年12月に第1回都連会館設立準備委員会が発足しました。今までにない大きな前進であると思います。

都民に対して、都連がどのようなサービスを提供することができるか、これからはその質が問われるのだと思います。各種行事の企画と内容の充実、事務局機構の整理拡充、多様な情報の収集と活用、スキーヤー相互の交流、国際的な立場での活躍など、多岐にわたる活動内容全般の質的向上をはかることがますます必要になってきます。そのための飛躍台となることを期して努力したいと考えます。

構想の具体的な内容については、これからいろいろな角度からの検討が行われると思いますが、いずれにしても都連始まって以来の大事業であることは間違いありません。各加盟団体・会員の皆様を初め、多くの方々のご協力なくしては、到底この大事業を遂行することはできません。理事会としましても、誠心誠意努力いたす所存でございますので、なにとぞご理解、ご支援のほどをお願いいたします。



規約等改正の概要について

(財) 東京都スキー連盟規約等審議委員会

委員長 関本 毅

都連は、昭和62年3月31日、監督官庁である東京都教育委員会より、文書により、寄付行為の改正と、寄付行為に優先する運営規則の改正を指導されました。皆様もご承知の通り、昭和63年より規約等検討委員会が発足し、5年間、規約等の改正と、組織の検討を始め、代表委員会(評議員会)、代表者会議等に於いて、経過報告を行い、昨年9月5日の評議員会で総括報告を行い、一部の委員が交代し、審議委員会に移行しました。委員会は、加盟団体より10名、執行部より3名の委員が委嘱され、13名で構成されています。

昨年9月以降、6回の会議、2回の作業部会、5回の東京都教育庁出向を経て、3月17日、第8回理事会に、規約等の改正案を提出し、審議、議決をお願い致しました。現在、都連には、寄付行為を筆頭に、33の規約等があり、このうち10の規約は、理事会と評議員会の承認を経て改正することになっています。

委員会は、両者の承認が必要な規約等を優先的に検討し、特に寄付行為の改正は、都教育委員会の認可が必要なので、教育委員会と折衝を重ねながら、審議改正作業を進めて参りました。

4月24日には、臨時評議員会を開催し、ご審議の上、ご承認を得て、東京都教育委員会の認可を得て、新寄付行為が施行されることとなります。その他の諸規約は、評議員会の承認後直ちに施行となります。従って6月の定期評議員会は、新しい規約により運営される予定です。委員会は全ての規約を整理し、新たに39の規約規程等集を作成し、各加盟団体に配布する予定で、作業を進めたいと考えております。

規約等改正の主要課題は、財団法人としての正常な運営と、旧運営規則に規定されていた、寄付

行為を上回る代表委員会の今後の位置付けにありました。都連は昭和48年に、財団法人として認可を受けましたが、長い間、任意団体時代の権利、義務を承継した代表委員会の存在を監督官庁に秘匿しながら、運営してきたことを、財団法人として、ふさわしくないと指摘され、行政指導を受けたわけです。委員会は「寄付行為」「運営規則」「加盟団体規則」「役員及び評議員選出規則」その他規程を制定しました。

1. 「寄付行為」改正について

「寄付行為」は、都連の憲法に相当するものであり、軽々しく改正すべきではありません。しかし、認可を受けてから20年を経過し、現在東京都が指導しているマニュアルと相違点が多々見られるようになり、又不都合な条項があったので、委員会としては、今後、都連の運営に支障のないように、デメリットのないように、私達の考えも主張し、東京都と合議の上、改正に応ずることになりました。

都連のような、スポーツ団体で構成される財団法人は、全国に多数設立されておりますが、基本財産は、都連より、はるかに多額となっております。都連は、加盟団体を媒体として、広く東京都民に公益事業を行っています。従って、その「寄付行為」には、加盟団体の存在が認められています。現「寄付行為」第29条に、本連盟の会議は、理事会と評議員会とする。と明記されており、財団法人には、これに優先する機関の設置は認められないのが財団法人の根本原則であります。

通常財団法人では、理事会の権限が強く、評議員会は単なる諮問機関として位置付けられています。都連は、理事会と評議員会とのブリッジ方式を採用し、重要事項は全て、理事及び評議員現在

数の3分の2以上の議決を必要とすることとしました。委員会で決定したのは、理事会の議長を会長に変更すること、会計年度の変更、職員の任免権の変更程度で、その他は平成5年10月に作成された東京都教育委員会の指導マニュアルに準拠して、教育委員会と条項の摺り合わせを行い、当方の主張を認めて頂き、都連にとって、デメリットのないように配慮して改正致しました。残念ながら、委員の一人が反対したので、「寄付行為」に財団の根本則である「理事会が評議員を選出する」という条項を明記することができませんでした。

2. 「運営規則」の改正について

東京都の指摘を受けた代表委員会に関する規程を「運営規則」から全文削除し、評議員及び評議員会に関する規程を改正補強しました。特に第3条役員を選出と、第4条評議員の選出の規程を見直し、寄付行為の精神を損なわないように改正しました。

今後、評議員は、一加盟団体の利益代表ではなく、団体から独立した人格をもって組織活動を行い、都連の運営をチェックし、役員を選出を行うという重大な責務を負うことになります。又、理事会の要望により、本部制の導入を図りました。今後は、3本部2部となり、本部には部会を置き、専門委員の活用に努めて頂きたいと思えます。特に委員会より昇格した安全対策部は、その業務が寄付行為の事業に明記されており、より一層の活性化を図る責任があると思えます。

尚、「評議員は理事会において選出する」という規程は、東京都の了解を得て「寄付行為」では、

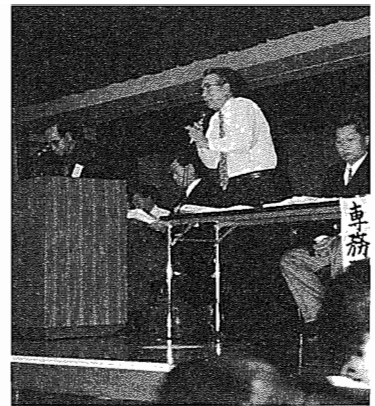
「評議員の選出方法は別に定める」とし今後には問題は残りますが、運営規則に明記することで妥協しました。

3. 加盟団体規則の改正について

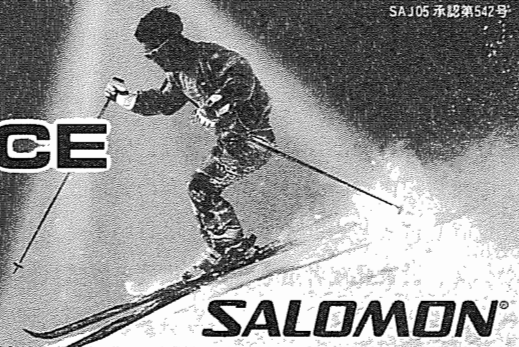
加盟団体規則については、代表委員会に関する規程を削除し、代表委員会設置の根拠を規程し、新たに制定する代表委員会規則に移しただけで、大幅な改正は行いませんでした。

4. 代表委員会規則の制定

教育委員会は、代表委員会の権限が、理事会及び評議員会の権限を上回っていることを指摘し、改正を要望しています。寄付行為に認められていない代表委員会が従来のような強い権限を持つことは認められません。旧理事会は将来廃止の意向でしたが、委員会は、代表委員会の存続を決定し、その位置付けと、権限をどうするかを最大の課題として検討しました。その結果、代表委員会は、今後、理事会と評議員会の諮問機関として位置付け、各加盟団体と執行部の意志の疎通を図り、どんなことでも提案できるようにし、評議員の定足数のうち、71名まで選出する権限を認めました。従って、代表委員と評議員は、別人格となり、各加盟団体は、従来通りの代表委員を選出し、会長に届け出るようにしました。会議開催は、毎年1



**SALOMON
PERFORMANCE**
才能に応えるテクノロジー。



サロモン & テーラーメイド株式会社 〒100-0001 東京都千代田区千代田3-10-2 東立ビル サロモン事業部 TEL03-5276-5220(代) 営業所/東京・大阪・札幌・仙台

回以上としましたが、評議員会とは別に開催する予定です。委員会としては、各加盟団体の権利を若干削減する結果となるので、規約制定に苦慮しましたが、今後も代表委員会を存続し、都連の運営に寄与して頂きたいと願っております。

5. 役員及び評議員選出規則の改正について

従来、都連の役員及び評議員は、代表委員会の直接選挙によって選出（評議員は選挙実施せず）していましたが、今後、役員は評議員会が選出し、評議員は、理事会が選出の責任機関となります。従って、従来の規則は全面的に改正しました。役員の選出は、評議員会に役員候補者選考委員会を置き、事務レベルの調整を行い評議員会の議決により選出します。尚、先般討議された定年性と任期の制限は、内規で処理したいと考えています。会長、副会長、専務理事、常務理事の決定は理事会の専決事項です。評議員の選出は、理事会が優先的に20名未満を選出し、残りの71名以上を、代表委員会が推薦し、理事会は、その意志を尊重して、評議員として承認する規程を考えました。又、寄付行為の精神を尊重して、役員の資格制限（登録の有無）を緩和し、広く人材を求められるように改正しました。ただし、同一団体から同時に、理事と監事を推薦することはできません。評議員も、各団体1名限りしか推薦することはできません。450を越える団体から、90名以内の評議員を選ぶことになるので、幅広く、評議員として、人格識見ともにふさわしい方を選出して頂きたいと願っております。尚、従来の選挙管理委員会の規程を見直し、役員・評議員選出管理委員会として存続し、選挙による選出が実施される場合にも、対応できるように規程を改めました。

6. その他の規約等の改正について

その他、推挙委員会、財務委員会、規約等審議委員会、権利廃止等に関する規程、公認スキー場等の諸規程については、寄付行為の条項改正に伴う見直しにとどめ、大きな改正は行いませんでした。又、役員候補者選考委員会規程と評議員候補者選考委員会規程を新規に制定しましたが、理事会の議決で改正できる規約等については、今後検



討し、6月の定期評議員会に報告、承認を頂きたいと考えています。特に事務局規程については、抜本改正を行い、再びトラブルが起きないように改正する予定です。

7. 今後の運営について

寄付行為の認可は6月頃になると思いますが、昨年9月に選出された90名の評議員は、今期役員の選出を行う重大な責任を負うこととなります。本年6月の評議員会は、新規約により運営されますので、直ちに役員候補者選考委員会と設置し、9月の役員改選に対応できる体制を整えなければなりません。旧選挙管理委員会も、新選出管理委員会として、準備を進め、選挙委員会も、次期会長候補者推挙の準備を行わなければなりません。委員会は、新規約の制定に取り組み、一応の成果は得られたと思いますが、今後は新規約を遵守し、理事、監事、評議員、及び各加盟団体の協力により、相互の信頼関係を確立し、スキースポーツを愛好する団体で構成する財団法人として、21世紀に向けて、益々発展することを願っております。

この項の終わりに、審議委員各位のご協力と、加盟団体の皆様のご理解に深謝する次第です。

<附記>

上記“規約等改正の概要について”は3月24日執筆された内容である。

規約等審議委員会から提出された“規約等の改正案”は理事会で審議、承認。4月24日（日）臨時評議委員会を開催、慎重審議の結果、議案は改正案どおり議決されました。

総務部報告

部長 島田 武重

はじめに

都連事務局は能率良いシステムと新しい事務の流れで正確に業務が推進しております。

これは事務局長、事務局員のひたむきな努力によることはもとより、加盟団体の皆様のご指導とご協力を頂いたからこそと、誌上をおかりして深く感謝を申し上げる次第でございます。

ひきつづいて、都連運営の要としての総務部が、各部間の調整を図り、行事執行の円滑化と組織運営のより一層の充実を目指すことは、これからの課題の第一義と考えます。

6年度報告

- ① 公益法人としての組織活動の充実のため、OA機器の活用によるシステム化を導入した。OA化システム委員会を中心に検討。当面、会計処理を重点に、積極的な取り組みを図っている。
- ② 財務委員会の活動を強化し、新分野の協賛と新財源確保のための活動を行った。従来の協賛、冠大会などを再検討し、新協賛団体の確保を積極的に行った。
- ③ 規約等検討委員会を中心にして、新しい財団法人としての都連の有り方の審議検討を続行した。
- ④ 評議委員会の年2回開催を実施。
財団法人としての評議員会（予算、決算分割開催方式）の導入により、1993年6月、平成6年度事業案・予算案を中心として、9月、平成5年度事業報告・決算報告を主として、評議員会を年2回開催した。
- ⑤ 臨時評議員会を開催（4月24日）、「規約等の改訂案」を審議。
- ⑥ 広報活動 機関誌発行・新聞掲載
都連と加盟団体との情報交換、相互理解の場として「S・A・T（都連だより）」を年2回定期発刊した。
- ⑦ オールマナックを発行し、2年に1回発刊される東京都スキー連名簿を刊行し、各加盟団体及び所属会員に活用された。

〈国際委員会報告〉

- 「ワールドスキーテクニクインジャパン研習会の支援
- 海外派遣選手を例年どおり送った。

教育部報告

'94年度教育部行事を振り返って

部長 広田 貞彦

① 指導員研究会・公認検定員クリニック

12月の菅平会場、車山会場はシーズン初めの研修会ということで参加数も年々増加傾向にあること、また冬のはじめで雪も少なかったために、参加された皆様方に満足いく研修や講習が出来なかったことを痛切に感じた。

これからの課題として一会場500人以内で行事を遂行したいと考える。

② 専門委員研修会

各行事の実施に先がけ、SAJ中央研修会のテーマ伝達の徹底も兼ねて12月中旬に、北海道朝里川で技術強化の研修を実施した。

雪の状況の良い所で徹底した技術強化をすることができた。明年度も実施予定。

③ 指導者養成講習会

指導員検定受験者の養成課程参加義務づけと、準指検定受験者増加で、講習会参加者も非常に増えた。講師の人員割当や、行事全般の運用が困難になったが、綿密な計画立案で消化できた。人数増加は反面技術レベルの低下につながり、4日間の講習では期待する成果は望めなかった。

今後会期を前年度のように延長する等の処置も望まれるが、現状では教育部行事数の増大に関しては困難であるが前向きに検討したい。

④ 東京都スキー技術選手権大会

他の行事と同様に年々参加者は増加し、本年度は予選で半数以下に絞り厳選して、全日本への出場選手を選出した。

その結果、全日本デモに男子7名、女子1名が認定された。

⑤ 準指導員検定会

本年度技術検定BOOKの発刊があり、受験者各自の技術レベルが高く、菅平会場、志賀会場で合計298人の合格者があり、年輩者の方々の合格が目立った。

全般的に指導種目で不合格になった人が多い結果になっている。

競技部報告

部長 尾山 正人

長期予報では、暖冬との予報であったが、降雪に恵まれてシーズン・イン・キャンプを除き競技部諸行事は円滑に運営終了する事が出来た。

1. 強化行事

○専門委員研修会

各行事の実施に先駆け、競技運営にテーマをしばり11月に実施した。運営を競技部専門委員だけで行う競技会が、三行事もあり、技術代表から旗門審判員まで専門委員が任にあたるシステムを実施。専門員のレベルアップを図った。

○競技運営講習会

隔年で実施しているが、今年度は公認大会主催の団体にも出席していただき、競技規則にのっとる競技運営をテーマに講習会を行い、公認大会の位置付けをはっきりさせた。

○レーシング・イン・キャンプ

シーズンインキャンプが少雪の為に中止、在京での雪上練習に切り換えた。今後は、オフトレーニングの一環として、雪上練習を取り入れ変化に富んだトレーニングにしていきたい。レーシングキャンプR-1、R-2共に野辺山(アルペン)津南(ノルディック)で開催した。今年からA指定選手の費用は、全額都連で負担になったが、アルペンでは、他の行事と重なり、A指定選手の参加が少なくなかった。来年度は、日程、対象を充分検討して、キャンプは根底から考え直し、参加しやすいキャンプとしたい。SAJ公認大会には、出来る限りチームキャプテンを派遣し、出場選手の管理等を徹底した。国民体育大会の総合順位は6位であった。

2. 主管大会

○SAJ・B級菅平高原SL

今年から名称が上記のとおりとおりに変更された。日程が月～火曜日の為に参加者は若干減少した。

○全中予選・東京都Jr選手権大会(野辺山)

この2競技会については、O化に向けてのテストケースとして、コンピューターによる計時管理を行い、スピーディーな運営ができ又これからの運営に必要な貴重なデータが得られた。

○マスターズ(斑尾高原)

日程を月曜日、火曜日から日曜日、月曜日開催とし、日曜日の13時競技開始とした。選手の参加しやすい日程の為に参加人員が大巾に増加した。

○都選手権SL, 青年SL(鹿沢)

鹿沢での大会も3回目となり定着して来た。この競技会はオペレーターを含め全て専門委員で競技を運営する為、昨年の反省点をシーズン前に対応策を徹底的に検討し、トラブルの防止に努めた。青年SLは定員の250名に達したが、都選手権の参加者が少なかった。

○クラブ対抗

菅平の地元関係者の協力を得て、盛大に開催され終了した。1位世田谷区2位港区3位江東区

○歩くスキー

会場を新潟県妙高高原として検討していきたい。

3. 公認大会

今年では全ての公認大会が開催された。今年からMIXカップ(GS2戦)が新設された。コースは都選手権GSと同一コースで行われた。

海外スキーツアー、
私たちに相談ください。03(3203)9630

- 地球を滑ろうSNOW WORLDヨーロッパ・カナダ・アメリカ・ニュージーランド方面
- 南太平洋の島々へBEACH WORLDニューカレドニア・タヒチ・フィジー・ブーケット方面
- どんな旅でも03(3203)1213まで個人から団体・ご出張から社内旅行などご用命下さい。

社団法人日本旅行業協会正会員 運輸大臣登録一般旅行業第351号・一般旅行業取扱主任者橋本健

株式会社 **クロスワトラベルサービス**

〒169 東京都新宿区大久保1-3-14 ワールドビジネスセンター新宿5階 FAX.03-3203-9633

フリースタイルスキー部報告

部長 大槻 譲

今回のオリンピックから正式種目となったエアリアルに、初めて日本代表選手として都連会員の待井寛選手（チームリステル）が選ばれたことを始めとして、当部にとってまことに意義あるシーズンであった。

予定された行事は、大雪のため（中止された）モーグル記録会を除いてすべて実施され所期の目的を達成できたことを喜びたい。特に3月初めのダイワ杯モーグル競技会は、予定人員120人に対して225人の参加を見るという予想も出来なかった盛会となり、むしろ今後の競技運営に問題を残す（嬉しい）結果となってしまった。

来シーズンは、フリースタイルスキーへの新しいフィーバーを肝に銘じてより広く底辺の拡大を計ると共に、より質の高い選手を養成するように施策を進めたいと思う。シーズン掉尾を飾った第14回全日本選手権大会における、都連選手の活躍ぶりは次の通りである。

第14回全日本選手権大会入賞者（都連関係）
（バレエ）

- | | | |
|----|----|-------------------|
| 男子 | 1位 | 生 沼 英 幸（港区ミッキー） |
| | 2位 | 長谷川宏太郎（　　　） |
| | 7位 | 谷 合 勘 弥（フリーSC） |
| | 8位 | 曾 根 俊 郎（フリーSC） |
| 女子 | 1位 | 田 中 由 香 子（港区ミッキー） |
| | 4位 | 上 村 祐 代（DDダイヤモンド） |
| | 5位 | 村 山 早 智 子（フリーSC） |
| | 7位 | 柳 直 江（スカーゼST） |
| | 9位 | 松 島 安 似 子（フリーSC） |

（モーグル）

- | | | |
|----|----|--------------------|
| 男子 | 6位 | 大 野 佳 之（フロムASC） |
| 女子 | 4位 | 堀 江 寿 美 代（チームリステル） |
- （エアリアル）
- | | | |
|----|----|-----------------|
| 男子 | 1位 | 石 川 浩（スカーゼ） |
| | 2位 | 荒 瀬 裕 基（　　　） |
| | 3位 | 安 藤 和 明（ダイワ精工） |
| | 6位 | 待 井 寛（チームリステル） |
| | 8位 | 前 田 一（スカーゼ） |
| 女子 | 5位 | 佐 藤 幸 子（スカーゼ） |
| | 6位 | 松 井 陽 子（港区ミッキー） |

安全対策委員会報告

委員長 内田時雄

今年は豊富な雪量に恵まれスキーヤーにとって十分なシーズンが送られた様です。各加盟団体のスキー傷害報告書をまとめて見ますと、残念ながら傷害事故の数値は増加しています。

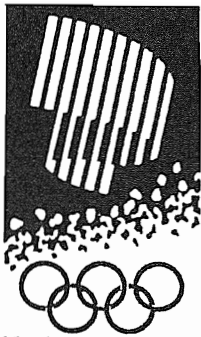
ここ数年、若い層の傷害が目立っていましたが今年の報告書では受傷者に高齢者が増えて来ました。40代後半から50代後半の中で若干女性の傷害が多くなっています。技術程度も初級、中級、上級と別れていますが統計的には初級者が多くなっています。日常の運動で軽体操等時々体を動かし、なお滑る前には準備運動もされています。傷害の内容は、切り傷が増えねんざが報告の大半をしめています。受傷部位は足首と膝、側靭帯断裂も見られます。時間帯は、午前中に多くゲレンデの状態も整っていても重い質の雪の中で起きています。滑走前には締具の調整等も含め充分な準備をして頂きたいと思います。

94年度の救急法講習会は青山学院大学で9月23日に開催されました。申込者673名男子545名女子128名、出席者数649名男子527名女子122名、欠席者24名出席率96% 午前の講義は、大蔵省印刷局診療所院長板谷忠重先生（防衛庁スキークラブ）からスキー傷害概論を受講し、午後は日本赤十字社東京都支部救急法指導員から救急法の講義、三角巾を使つての実技が行われました。準指受検者や、各加盟団体安全対策担当者の方々が熱心に受講されました。

S A J 公認パトロール受検者養成講習会は、1月7日（金）～1月9日（日）車山高原スキー場で開催されました。受講者数東京11名男子10名女子1名、千葉3名男子2名女子1名、神奈川21名男子17名女子4名、

好天に恵まれ雪上技術、ボート搬送に多くの講習を進め、座学、ロープワーク、三角巾の室内実技と内容の充実した講習が進められました。

都連より公認パトロールを受検された方は7名でした。結果は、6名の方が合格しました、合格率85.7%今後のご活躍を期待します。



Lillehammer'94

リレハンメル五輪大会について

～天の恵み、地の利、人の和～

フリースタイルスキー

ヘッドコーチ 大槻 譲

「奇跡的な天候」と地元ノルウェーの人々が言ったように例年なら雪不足の筈が、2月初旬には160cmを越える積雪となり、開会式から閉会式までの全期間、風も吹かず、雪も降らず青空が続きダイヤモンド・ダストがキラキラと輝き舞う、まさに理想的な冬季オリンピック大会であった。

サマランチIOC会長は閉会式でBEST EVER史上最高のオリンピックと表明された。果たして4年後の長野五輪はどんな気象になるのだろうか？気象条件によって評価の7～8分が決まってしまう冬季大会だけに気になるところである。

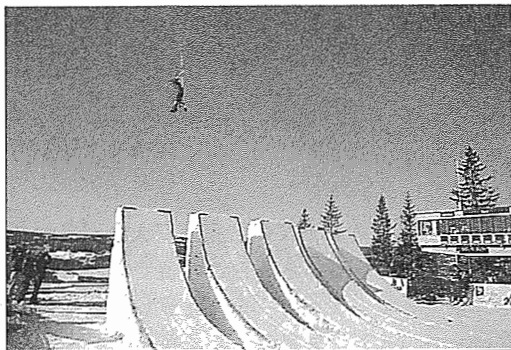
今回FS日本選手チームの監督として派遣され、FISの世界選手権大会・ワールドカップとは全く異質な体験をさせて頂いた。

まず、開催国の人々の五輪大会への想いの熱さというか深さというか、スキー発祥の地と自負するノルウェーという点を考えても、競技場とは言わずもがな、人口僅か2万3千人の街全体に満ちみちた熱気はすさまじいものであった。我々日本人にとってスキーは趣味の一つであるが、ノルウェー人にとってスキーは生活の一部になっていると実感した。フリースタイルスキー（モーグル、エアリアル）の開催されるカントゲン会場更に奥に4km離れたオリンピックパーク（XC）に向かって朝早くから、バックザックに国旗とXCのスキーをつけて坂道を登って行く老若男女の行列を見た時にその感を深くした。また入場券が手に入らぬ人々はマイナス20℃と冷え込む森の中にテントを張って夜を過ごし観戦する人々の多かったのも驚き以外の何物でもなかった。こうした国民の

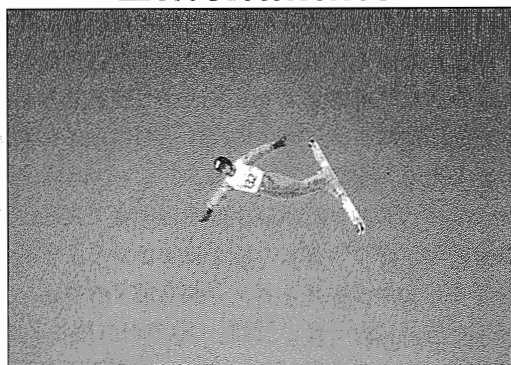
熱い想いが合計26個のメダルをノルウェーにもたらしたと言えよう。

次に今回目についたのはお家芸といわれるジャンプ、XCに加えてフリースタイルスキー、アルペン種目の躍進ぶりである。オーモット選手の活躍は既報の通りだが、FSSでもモーグル女子にS.ハットスタットが金メダル、エアリアル女子にBシードから銅メダルを獲得したH. S. リド選手の健闘は正直に言って驚いた。

国民の理解を得て数年前から強力に押し進めて来た“オリンピック、トツペン”と称する選手強化対策が結実開花したコンセプトの下で、強化予算の効率的配分、コーチの身分保証、体と技術のトレーニング、そしてメンタルマネジメントにわたる選手の意識改革を含む画期的なものであるという。モーグルコース、エアリアルコースの周囲を立錫の余地もなく埋めつくした観客の大声援をうけて勝利へのプレッシャーが重くのしかかった筈なのに、この大声援をむしろ自分のエネルギーとして取り入れ実力100%以上を發揮して逆転のメダルを手にしたのだから、立派としか言いようがない。オリンピックトツペンによるメンタルマネジメントが確実に身についた証といえるのではないだろうか。90%以上確実、既に手中にした金メダルと、誰もが信じていた団体純ジャンプ陣の運命のジャンプの印象が余りにも強烈なだけに、あらためてメンタル面の強さの必要を痛感したのである。古い言葉だが、今回の五輪大会にとって「天の恵み、地の利、そして人の和」が成功の鍵を握っていたと感じたのである。



Lillehammer



リレハンメルから長野オリンピックまで

フリースタイルスキーエアリアルコーチ 田北 茂

今回のリレハンメル五輪大会から、エアリアルが正式種目となり、日本の第1号として都連所属の待井寛選手（チームリステル）が選ばれたことは、とても喜ばしい光栄なことでした。また最終選考の時点でも3人の候補者中2人が（八木選手スカーゼSC）都連会員であった事を考えると、エアリアル種目での都連選手の実力は高く評価されると思います。

待井選手もここに至るまで大変に辛いきびしい時期がありました。アルベールビル五輪以降、ナショナルチームの強化方針が、技術重視に加えて精神力の強化を含めたものによって変わったことで、彼の場合まず性格の改造が求められたからです。それまで彼はそううつ病ではないかと疑われる程、波のある選手でしたが、地道なメンタルトレーニングや、誰にも負けないエアリアルへの情熱が、強化メニューを積み上げることに成功しました。その間恐らく彼にとって一番辛かったのは自己改造の部分であったに違いありません。結果として

オリンピック選手として選ばれた彼は物事をポジティブにとらえる、とても明るい選手に変身していました。メンタルマネジメントの成果が実をむすんだといえるでしょう。

五輪大会開催中も、金メダル候補の日の丸飛行隊や、コンパインドの荻原、河野選手たちに「フリースタイルの待井です。僕の演技を見て下さい」と練習中に撮った写真を配ってフリースタイルスキーの説明を始めるしまつです。その光景を見て最初はどうなることかと思いましたが、結局和やかな雰囲気を作り出してフリースタイルスキーの認知度を高めることになりました。

今や日本中の人々が、エアリアルとは何かを知りようになり選手育成の体勢も備いつつあります。他の種目と違って、環境的にハンディキャップの少ない都連のエアリアルチームが、長野に向かって第1歩を踏み出しました。これからも、以前にもましてエアリアルを応援して頂きたいと思えます。

オリンピックに参加して

(チームリステル) 待井 寛

'94シーズンのすべての合宿及び大会が終わり、ホッと一息ついている今日この頃です。振り返ってみると今シーズンは、大きなプレッシャーの連続でした。

昨年8月猪苗代での都ウォータージャンプ選手権大会、自分の実力と結果の差異に挫折感を味わい自信をなくし、五輪大会への夢もこれまでかと、そこまで落ち込んでしまいました。しかし同じ都連所属(スカーゼ)の八木選手の励ましもあり立ち直ることができました。

そして10月の全日本WJ選手権大会で優勝。五輪への弾みがつきました。平成4年から2年連続してJOCからオリンピック強化選手の指定を頂いている私にとって、「優勝するのが当然」と周囲の目があり、そのプレッシャーは想像以上のものでした。

年が明けて、リレハンメル五輪出場権を賭けた、ワールドカップ北米戦、エアリアル男子の出場枠はただひとつになり、それも北米戦の成績如何ではなくなるかも知れないとの話を耳に挟んだり、本番ではこのジャンプに失敗したらリレハンメルには行けなくなるのではないかと、行けなくなったらどうしようかと不安と焦立ちで一杯でした。

また転戦中に五輪出場決定が伝えられた後も、けがをしたら……と不安にもなりました。以上のような経過をへて私はとうとう五輪出場の夢を果たしました。

初めて体験するオリンピック、結団式、入村式、開会式そして閉会式とすべてが新鮮に感じました。北緯60°のリレハンメルの空は連日美しく神秘的

な色をしていました。

2月21日 (左) 田北コーチと待井選手(エアリアル)

日予選当日、私は常日頃メンタルトレーニングのご指導を頂いている大槻先生のおっしゃる通り、リラックスして、スタートに立ち自信に充ち溢れ、のびのびとした演技をすることができました。Bグループの3位で、決勝に進むことは出来なかったのですが、4年に1度の大舞台で自分を表現できたことに、深い到達感を感じ良い思い出になりました。

長野五輪まであと1400日余。長野では金メダルを目指して悔いのないよう精一杯努力したいと思いますので、これからもご支援をお願い申し上げます。

今回の五輪遠征に私を応援して下さいました皆様の方々にこの紙上をお借りして、心から御礼を申し上げます。

ご声援本当に有り難うございました。

- '94~'95 SAJデモンストレーター-東京代表
- 男子 大盛宏幸(板橋区スキー協会)
栗野利信(三井物産スポーツ(株)スキークラブ)
出口沖彦(スマイルスキークラブ)
伊藤政照(アシックススキークラブ)
伊東秀人(板橋区スキー協会)
五藤博文(スポーツファンクション)
三上慶孝(ICIスキークラブ)
- 女子 吉田美希子(野辺山ハイランドスキークラブ)



妙高パインバレープリンスホテル(本館136室、新館87室)を中心にレストラン&ショップ棟などのアメニティ施設や、3コース、27ホールのゴルフコース、21面のテニスコート(インドアコート2面を含む)プール&アスレチック、インドア馬場などのスポーツ施設で、多彩なリゾートライフをお楽しみいただけます。

妙高パインバレープリンスホテル
妙高パインバレーカントリークラブ
妙高パインバレー スキー場

〒949-22 新潟県中頸城郡妙高村桶沼1090 TEL. 0255 (82)4111

■お問合せ・ご予約 エム・アイ・ティ観光 東京販売センター 03(3434)7040 大阪販売センター 06(946)0087

ワールド スキーテクニク イン ジャパン

国際委員会 牧田慶子



平成6年2月18日～20日、菅平大松スキー場にて、東京都スキー連盟主催で第4回目が開催された。

世界のトップスキー指導者による各国のスキーテクニクの指導を受けられる最高の機会といえるこの行事に、多くの参加者の熱心な姿が見られた。実技指導は、フランスはピエール・ボットENSA（国立スキー登山学校）教授とマーク・ガルシア講師。オーストリアはブンデススポーツハイムからゲオルグ・ヘルリグレ主任講師他2名。米国は'93年の全日本スキー技術選手権の男子総合優勝を果たしたマイク・ファーニー教師。カナダはスティーヴ・スマート講師。日本は五藤伯文デモ、上原由プロスキーヤー、伊藤真希子講師と特別班の松沢、後藤寛SAT専門員。通訳としてSATの伊東秀人フランス国家検定スキー教師、若月新一オーストリア国家検定スキー教師、塚脇誠オーストリアスポーツトレーナーがコーチ陣に参加した。

18・19日の午前午後はローテーションで各国のスキー技術の講習が行われ、各グループで一人一人に丁寧なアドバイスが与えられた。国際スキーシンポジウムが、1日目の実技講習の後増田千春SAT教育部専門員の司会進行で開かれた。

まず、フランスのボット教授により海外から見た日本の技術選手権の感想が述べられた。観客、マスコミの多さに驚かされ、又、日本の技術選のレベルの高さを感じたが、採点方法は理解しにくかった。フランスのスキー人口は年々減少気味なので、日本の技術選手権のようなものを開いたらと思うとのことであった。

オーストリアのゲオルグ教師により技術選手権に類似した海外のイベントの動向について話された。オーストリアではスキー学校単位でチームを

作って技術選手権を開くことでスキー学校間のコミュニケーションを計り、オーストリアのスキーマethodに刺激を与えることを目的とされている。

米国のマイク・ファーニー教師の日本の技術選手権に参戦しての感想は、'91年に初めて参加したが観客の多さに圧倒されて、あまり多くの人に見られて自信がなかった。そして4年になるが、日本のスキーヤーの年々の技術の向上は素晴らしい。デモのイメージが強く、スキースクールで熱心に習って上達しようと努力する光景が見られる。アメリカのスキーヤーの多くはスキースクールに入って講習を受けることは苦痛で、仕事の延長のように感じる傾向にあり自由滑走を好む。

カナダのスティーブ・スマート講師により、今年の4月20日からのウイスラー・ブラッコムスキー場での世界技術選手権の詳細についての説明があった。

最後にSAJ教育本部の渡辺茂先生によって日本の技術選手権の位置づけと意義について話された。日本のスキーヤーの95%が一般のリクリエショナルスキーヤーであとの5%が競技スキー指向と指導指向である。級別テストを受けて、指導員を目指す人もいて中にはスキー技術選手権にも出て場合によっては優勝することも夢みている。デモになることによりメーカーのサポートやテレビ雑誌からの取材などによる収入等の見返りもあり優雅な生活は羨ましいとも見られる。

2日目の夜懇親パーティーがあり、20日はフォーメーションの練習とコンテストの後閉講式となった。



第47回東京都スキー連盟クラブ対抗協議会

団体総合成績優勝 世田谷区 2位 港区 3位 江東区

アルペン種目

組別	1位	2位	3位
男子ジュニア	吉川 剛志 (シール)	中條 隆明 (港区)	富安 有爾 (カバタ)
〃 少年	平本 佳暢 (町田市)		
〃 1部	寺岡 岳夫 (青梅市)	関根 武志 (白馬)	波多野 明男 (デモンズ)
〃 2部	小野 雄一 (港区)	後藤 守 (中野)	塩嶋 博之 (ヴィドラ)
〃 3部	佐藤 一正 (二十日石)	相沢 孝 (調布市)	角館 喜治 (港区)
〃 4部	本平 国幸 (エーデル)	岩谷 三兵 (モンタナ)	加藤 純 (ヌプリ)
〃 5部	佐藤 日出夫 (世田谷区)	長谷川 悟 (葛飾区)	成田 隆二 (スキー研)
〃 6部	斉藤 久 (ヴェーデル)	井桁 四郎 (エーデル)	加藤 博 (スキー研)
〃 7部	服部 清衛 (シール)		
女子ジュニア	青木 尚美 (世田谷区)	佐藤 藍 (ティンバーライン)	
〃 少年	富岡 薫 (テモネージュ)		
〃 1部	樋口 紀子 (港区)	岡田 恭子 (世田谷区)	中井 麻友美 (デモンズ)
〃 2部	室田 陽子 (UNO)	岩井 美鈴 (ヌプリ)	制野 千賀子 (NEC府中)
〃 3部	兎澤 恵子 (ヌプリ)	加勢 陽子 (大田区役所)	松本 キヨコ (世田谷区)
〃 4部	深沢 睦子 (トルベ)	平尾 信子 (二十日石)	高木 敦子 (スラローム)
〃 5部	本間 かほる (世田谷区)	上山 千恵子 (ヴェスタ)	井桁 和子 (エーデル)

ノルディック団体 男子12キロ 1位 世田谷区 2位 港区 3位 J R大井

女子4キロ 1位 世田谷区 2位 江東区 3位 K S C

ノルディック個人

組別	1位	2位	3位
男子ジュニア	青木 克好 (世田谷区)	深沢 正 (チロル)	
〃 1部	笛田 剛 (世田谷区)	合田 安男 (港区)	縄田 尊司 (NEC府中)
〃 2部	吉岡 庸雄 (J R大井)	遠山 敏幸 (渋谷区)	横沢 雅彦 (J R大井)
〃 3部	荒井 秀樹 (江東区)	佐藤 次男 (世田谷区)	岡 宏 (世田谷区)
〃 4部	佐藤 清司 (世田谷区)	小笠原 和人 (東京ガス)	田辺 幹雄 (J R大井)
〃 5部	鳥海 幸一 (チロル)	西澤 忠久 (スポーツマン)	中庭 信夫 (スポーツマン)
〃 6部	佐々木 栄一 (シール)		
女子1部	石倉 清子 (江東区)	大石 恭子 (江東区)	佐藤 洋子 (NEC府中)
〃 2部	高瀬 淳子 (世田谷区)	根岸 仁美 (江東区)	
〃 3部	豊田 百合子 (都庁)	土屋 博子 (都庁)	斉藤 和子 (K S C)
〃 4部	山口 愛子 (スポーツマン)	荒井 雪江 (ヴェスタ)	
〃 5部	上山 千恵子 (ヴェスタ)	榊原 寧子 (ヴェスタ)	

新加盟団体〔臨時評議会(6・4・24)承認〕

団体番号	新加盟団体名	会員数	代表者名	紹介団体名	仮承認月日	団体番号	新加盟団体名	会員数	代表者名	紹介団体名	仮承認月日
572	スポーツユニティ	36	田 和夫	スノーキャップ	5.9	578	イエティスキークラブ	30	笠島 正	ヨシマルスキークラブ	5.9
573	ファイヤーレーシングチーム	30	梶 孝造	ICIスキークラブ	5.9	579	バグーススキークラブ	35	山本雅一	シュアスキークラブ	5.10
574	やまびこスキークラブ	45	浅野恒雄	シールスキークラブ	5.9	580	マスターズスキークラブ	30	伊藤真啓	ホワイトキャッツS.C	5.11
575	警察庁スキークラブ	30	成田元英	東京消防庁スキークラブ	5.9	581	M G武蔵野スキークラブ	37	北岡和彦	ラッセルスキークラブ	5.11
576	パンフアート	31	吉池宏彰	志賀高原スキークラブ	5.9	582	早稲田大学教職員スキークラブ	33	長谷川隆久	スカブラクラブ	5.11
577	カジマスキークラブ	48	田中達郎	日本アルペンスキークラブ	5.9	583	東京デフスキークラブ	62	粟野達人	練馬区スキー協会	5.12



雑言

監事 中島文夫

2月、仕事で菅平の雪上行事に出席し、ミーティングが終わって、人気のない部屋に戻ると電話のベルが鳴った。「監事さん〇号の部屋に来ませんか」と、S氏の歯切れのよい誘いの声。訪ねれば総務理事の面々が、仕事にひと区切りつけて、だんらんのひとときである。早速〇氏が「一杯如何ですか」と地酒の一升ピンを差し伸べる。杯を酌み交わしながら、時事の話題。コメ問題から国際問題へと話題転じ、ついには森羅万象について語り合い、深更に及ぶ。

そろそろ話の種が尽き、とろりとしているところへ〇氏から「中島さん、(スキーと登山の関係について)書いてくれないか」と原稿の依頼があった。しまったと思ったが、後の祭りであった。書くこと、考えることの苦手な私ですが清水の舞台から飛び降りる思いで、いやだけれど仕方がない(とニコリ)。

戦中派の私がスキーを始めたのは戦後であり、登山もだいたい同時期だったと思う。スキーイングはスキー場で、楽しみを「滑り」に求めていたので、「私はゲレンデ・スキーヤー」ということになる。「昔からスキー界には各自のスキーをやる目的の違いを促えて(山スキー、ゲレンデスキー、競技スキー)と呼ぶ三つの分野があるというのが常識になっていた」そのスキー場は一応山と言える高い所にあったから、自力で何時間もかけて登って行かなければならなかった。

たしか昭和24年頃だったと記憶しているが、県下のスキー大会があり、耐久競技(今のクロスカントリースキー)で入賞した私は、山岳会の会長に呼び出され、譴責処分を受け、自今スキーはしないということで、ことなきを得たのである。

こんなことがあって私は、ゲレンデ・スキーから足をあらひ、山へ専念することになった。所属していた、山岳会は岩登りを主とした、先鋭的な会であったから、いち時期は殆ど毎週のように三ツ峠の岩場へ、ロック・クライミングの練習に通った。かくしてだんだん山へのめり込み、冬山の

雪と、氷と、岩と、そして烈風に魅せられて、「より高く、より困難へ」と立ちむかおうとする登行意欲を追求していくのであった。

積雪期の登山にはスキーが欠かせない。スキー板にシールを張って、「登る」というスキーであって、「滑り」重点ではなかった。私が山スキーを始めた最初の山は八ヶ岳で「登る」ためのスキーだったから、転倒の連続で、起き上がるまでに何分もかかった。そこで覚えたのが意識して転倒し、方向を変える「ターン」である。

話は前後するが、厳冬期の尾瀬の山スキー行で、燧ヶ岳を下降中、膝を捻挫したときは三平峠の下の登山口まで、仲間の手を借りず転倒式ターンで下山した苦しい経験がある。やがて私は、「山とスキー」に別れを告げなければならぬときがきた。というのは戦後の日本経済復興の担い手として、東京勤務となったからである。

そして15年の歳月が流れた。私もやっと人並の休暇がとれるようになった。この間、スキー界も、山岳会も全般の事態が大きく変わり、スキー界は、戦後の科学的進歩により「滑り」に適したスキーと用具の開発と供給のおかげで、スキー技術は大いに進歩し、より早く、より美しく、安全に「滑るか、滑れるか」を目指していた。(山岳界はヒマラヤ時代を迎え、海外遠征花盛りであった)スキーは「滑ることなり」の成り行き(風潮)に押されて、登山向きの山スキーの用具は北海道と一部地域を除いて殆ど作られなかった時期があり、山スキーは下火になった。山屋さんがスキーをしなくなったのはこの時分からであろう。

私は竜宮城から帰ってきた「浦島太郎」であった。時を15年前に戻したい、戻せるものなら……。心の中にまどろんでいた、「スキーアルピズム」が目を醒ましたかのように、北海道、東北の山々、日光連山へと私をかき立てていくのである。山スキーもようやく盛り返し、昭和50年代の後半になると、「登る」楽しみから「滑り」の楽しみへと変革し、私の山スキーも「滑り」志向になってい

た。ゲレンデスキー板と、スキー・ブーツを初めて新調したのは実に昭和53年であった。

そして2級を54年1月に、1級を55年1月に取得し、準指に合格したのは59年2月の菅平であった。ゲレンデスキーに戻るまでに随分と遠回りをしたものである。こうして追憶を語っていると、ゼッケン「4番」をつけたあの日の情景が脳裏をよぎり感無量である。「スキーへの回帰」はシュプールに、岩に無念の涙を残して山と別れた悔しさだろうか。ノスタルジアだろうか。あるいは「サミエル・ウルマン」の「青春の詩」の一節にある「青春とは心の持ちかたである。人は齢を重ねただけでは老いない。情熱を失ったときに、初めて老いる・・・」と。若さの追求だろうか。山との邂逅はスキーより遅れて昭和62年の冬山であった。なつかしの山「八ヶ岳」の西壁である。このとき、世界的クライマーで「岩壁の舞踏家」といわれた長谷川恒男（ウルタルⅡで遭難死する）氏との出会いがあり、この小さな出会いを大きく育てた努力もあって、以来氏の生徒として、岩登りの指導を仰ぎ、一年を通して岩稜に氷壁に情熱を注いだ。一緒に登ってくれた穂高の滝谷が氏の最期の山行であった。制限字数を突破してすみません。山スキーも、ゲレンデ・スキーも「滑り」という点では共通ですが、一定のゲレンデで滑るスキーヤーの上手な滑りと、多彩な自然条件の中で滑る山スキーヤー（山岳スキー）の滑り振りに違いがあるのは当然である。最近、日本の職業山岳ガイドが基礎スキーの級別テストを目指して特訓している話を直接聞いているが、よろこばしいことである。アルピニズムとスキーアルピニズムが握手する日も真近かである。スキー界も幅広いスキーを求めていく時代が到来したのだろうか。スキーヤーの皆さん、老スキーヤーの「たわごと」を最後まで読んで頂き有り難うございました。

国分寺市スキー連盟

教育部長 西村 彰

国分寺市スキー連盟は、昭和30年に発足した山岳部を前身に、昭和44年に市内の事業所のクラブ・地域のスキー愛好家によって結成されました。現在の組織は、加盟クラブ5団体、クラブ員150人、正指導員3人、準指導員5人です。

加盟クラブは独自の計画で活発に活動しています。連盟本部は市内におけるスキー活動の普及とクラブの親睦を目的に、市民スキー教室・基礎技術講習会・バッジテスト会・市民スキー大会等を行っています。当連盟の特徴は、国分寺市より委託をうけて市民スキー教室・市民スキー大会を開催していることです。市民スキー教室は、30年近くの歴史があり、野沢温泉スキー場で開催し、多くの市民に親しまれています。特にここ数年、低料金・親切な指導・バッジテストに人気が集まり、募集を始めるとすぐに一杯になってしまうという盛況ぶりです。野沢温泉スキー場・旅館との長年の付き合いにより、教室・バッジテストのバーンの確保も容易であり、スムーズに運営できています。さらに、当連盟では正しい基礎技術の普及と指導者の養成を目的に、基礎技術講習会・バッジテスト会、強化合宿を連盟加盟クラブ員を対象に実施しています。前者には多くのクラブ員が参加し、技術を磨き各級にチャレンジしています。後者は1級所持者・今シーズン1級にチャレンジするクラブ員を対象に実施しています。その中から4～5人を準指導員養成講習会・検定会に派遣していますが、準指の壁は厚く今シーズンは1名が合格しました。今後ともよろしくご指導くださるようお願いします。

スキージャーナルの
スキー図書&ビデオ
★好評発売中ノ(定価は税込)



◀スキー・ビデオ・最新作

94技術選「テックニック」

第31回全日本スキー技術選手権大会
税別価格3,260円(分)70分(分)60分(分)600
●全種目のトップ10と男女総合10位を収録

◀94スキー図書・新刊

最新スキー・ワールド
ドカップの技術

見谷昌彦著・定価1,600円(分)310
●アルペン各種目に見る最新・最速の技術

超絶スキー&ドライブ論
三ノ尾 著・定価1,200円(分)310
●クルマとスキーへの熱い思いを綴る対談集

中年スキーのすすめ
館内 著・定価1,200円(分)310
●中年諸氏へ贈る、スキーへの誘いと激励

◀第9号・好評発売中ノ

スキー場経営

「スキーエリア・マネージメント」
スキージャーナル編各号定価1,600円(分)600円
●スキー場運営に関わる諸問題・対策・展覧
などを海外での実態も踏まえ具体的に提言

エスプリ・レーシングのクラブ自慢

会長 稲垣 彰

クラブの名称にレーシングと付けているので、競技専門と思われがちだが、そうでもないのである。たしかに競技練習は年8回約25日位と多いが、大会出場は個人の判断である。でも2級以上は競技練習に参加することになっているようである。

クラブの目標は、より高いレベルのフリースキーイングである。だから競技で高めたスキー捌きが重要なファクターなのである。

クラブの行事は多い。12月初めの初滑りから7月末の乗鞍合宿まで、2回のスクール、合宿、研究会、1月中旬のアメリカキャンプ（20～25名参加。今年で7回目、半数以上が同じメンバー。コロラド州ベイル）しかも5月中旬から3陸トレか週イチではあるが始まり20～30名が参加する。会長は全部参加してやっと遊んで貰えるのである。会員約60名、有資格者10名、手頃なサイズである。クラブのモットーは、手造り、本物指向、そしてシンプル、まだ有る「グズは罪悪」である。剛直な気風とエレガントなフリースキーイングが混在し、速さと細いシュプールが評価される。

組織の運営の中心に女性が多く、皆美人である。男性会員の多くは企業内エリートが多く、時の労働事情を越えての運営参加は新しいビジネスマンの有り様を示唆しているとも云える。

都連傘下のスキヤーの皆さん、エスプリ・レーシングは今一生懸命頑張っています。雪の上で声を掛けて下さい。



東京スポーツ研究会・ポールスタースポーツクラブ

向原 敬騎

本クラブは、1970年に日本アルペンスキークラブの推薦で、鈴木一正先生を中心に発足した。

コンセプトは、スキーに関する研究を主体に、社会・体育・生涯スポーツの学習は勿論、普及・発展に貢献・寄与するためである。

創設期は指導員不足で雪上行事は、白馬スキークラブに支援協力を仰いだ。紙面上でお礼を申し上げる。

現在クラブ員の年齢構成は、60才代から17才迄で、40才以上が相当数を示めているが20才代も増え始めた、クラブ員の職業は多種なのが特色である。有資格者はクラブ員の6割弱で、創設期の1名から50名となった現状は、隔世の感を抱く次第である。しかしながら講習会離れの昨今では多くの資格者を、活用する機会の少ないのが頭の痛いところである。活用の道・機会をご教授賜れば幸いです。

雪上行事は、検定講習会3回・合宿4回・日本アルペンスキークラブ友好6クラブ対抗競技会1回。

合宿関係では、創設以来継続している1月浦佐での平沢文夫技術顧問によるご指導であるが、これが技術向上の要となっている。

シーズンオフは、テニスとかゴルフ等を開催している。スポーツの後、参加各クラブ全員での懇親会となり盛り上がり、友好をこの上なく温め深める恰好の機会となっている。

これ迄の関係クラブのご指導・ご支援を感謝すると共に、今後も都連の発展に寄与すべく一同努力する所存です。一層のご指導をお願い申し上げます。

この夏は、まるごとN.Zの車山高原



Southern Crossing New Zealand Fest.'94

8.06 SAT-8.2 | SUN

8.20 SAT "ONGAKUBATAKE" NIGHT CONCERT

服部克久/音楽畑ナイトコンサート 7:00PM開場 8:00PM開演
CONCERT TRAIN "THE KIWI FLYER '94 SPECIAL"
特別列車 新宿-茅野 THE KIWI FLYER '94運行

車山高原観光協会 催事実行委員会 ☎0266-68-2626

「総務部研修会の報告について」

総務部専門委員長 三瓶 一男

初めに、我々専門委員は年間を通して「都連だより」、「オールマナック」、「都連名簿本冊・分冊」等の刊行物の編集作業や、「評議員会」、「事務担当理事会議」、「諸イベント行事」等の受付や書類等の発送業務や、毎月行われる理事会議録の書記を主にやっております。しかし、今迄総務担当理事と専門委員が合同で雪上での交流を深める機会がありませんでしたが、一昨年、部長の提案で実現し、昨年は菅平スキー場、今年は車山高原スキー場へと研修会会場をセットして頂きました。もちろん目的は、今後の総務部活動のあり方について、理事・専門委員が一体となって意見を交換し合い、よりよき部活動の発展を期すと共に、お互いの意志疎通を図ることにあります。

さて、研修会の報告に入ります。1月28日（金）車山高原スキー場内、スカイシティ前に午後2時集合。専門委員6名にて夕方迄フリー滑走しホテルに戻り、夕食後、理事及び後続組の専門委員を待つ。我々が出発した時から東京も雪が降っていたので到着が相当遅くなるかと思われたが以外に早く着く。但し、部長は菅平スキー場での都技術選手権大会役員参加しているので明日との事。理事3名、専門委員8名の参加者全員が揃い、担当理事により明日からの2日間の予定を発表され、しんと降り続けるリゾリックス車山高原ホテルの2階一室で交流を深めた。

29日（土）昨日からの雪も降り止み全員ゲレンデに集合し、昨年同様に雪上講師に大沢・前田両理事が担当され、「3年後のスキーテクニク」というテーマにそって、力の入った指導を受け、また、各人もスタイルに気にもせず一生懸命受講していた。

昼食後、部長も加わり午前中の続きの講習を受

け午後4時半に終了し、シャトルバスにてホテルに戻る。

夕食後、ミーティングが始まり、部長自らこれから開催される臨時評議員会から定期評議員会迄のタイムスケジュール等の日程発表及び説明があり、又吉田理事より、規約規程等について長時間説明があった。その後、毎年発行されている名簿について、いかにより完成度の高いもの出来るかについての研修テーマが移り、各人活発な意見があり、又、その専門分野の仕事をされている者もいるので、その人達の作業上のノウハウや、次年度以降に活用出来る様な資料の保管に関する件もふまえて、本年度より実施しようと一致をもった。非常に進歩があった様に思えた。

30日（日）昨夜からの吹雪は止み猛烈に風が強く非常に寒い。朝食後、部長の研修会終了の挨拶があり、帰京される部長を玄関前迄見送りに出た時、駐車場ではほとんどの車が雪に埋もれていて、何台もの車のエンジンが掛からず立往生して困っている人達の姿が目に入りました。何んとその中に我々の仲間の車が2台も入っており、内1台の車のエンジンが掛かるのに昼近くなってしまった。

終わりに、今回、公務等で参加出来なかった理事の人達や専門委員の人達におかれましては、年一回の事ですので日程上の問題もありますが調整して頂いて、次回にはぜひ参加してほしいと思いました。



編集後記

櫻の新緑が目まぶしい。アメリカハナミズキの花が“かざぐるま”のようでかわいい。4枚の花弁（実は萼）がねじれるようにしてふくらんでいたつぼみがあつという間に開き、今春たけなわである。スキーシーズンもひと区切り、スポーツショップの店先は、テニスとアクアのディスプレイに変わった。

今頃になると、春スキー、夏スキーへと再び雪山へのプランを立てつつ、腰の痛みを訴える人が

多い。持病や一過性のこともあるが、概ね、滑りすぎと年齢(?)による慢性疲労の蓄積が原因のようである。

シーズン中のおつりが今頃来るわけだが、日頃の筋力トレーニング（特に大腿筋の筋力づくり）を心がけ、腰に負担をかけぬよう、オフシーズンは体力づくりにも心がけたいものである。

SAT編集委員会委員長 大沢秀一
委員・久保田友江、総務部専門委員